

泌尿紀要  
Acta Urol. Jpn.

Vol. 30, No. 1 ACTA UROLOGICA JAPONICA January 1984

# 泌尿器科紀要

第30巻 第1号 1984年1月

過伸展膀胱の denervation supersensitivity に		
関する実験的研究	横山 修・ほか	1
尿路感染症と血液型 P <sub>1</sub> 抗原 一予報一 (英文)	安本 亮二・ほか	9
泌尿器科内視鏡におけるビデオシステムの応用	阿曾 佳郎・ほか	13
インドメサシンのプロラクチン放出抑制効果 (英文)	伊藤 晴夫・ほか	17
転移性尿路上皮癌の化学療法		
一低腎機能症例に対する cis-Diamminedichloroplatinum		
の1投与法	木原 和徳・ほか	21
失禁防止術を施行した女子尿道下裂の1例	辻本 幸夫・ほか	29
腎盂扁平上皮癌の1例 (英文)	竹内 敏視・ほか	35
尿閉を主訴とした女子膀胱平滑筋腫の1例	西村 一男・ほか	41
悪性像を示した giant condyloma の2例	金藤 博行・ほか	49
衝突型を呈した重複癌 (膀胱腫瘍・S状結腸癌)		
により形成された膀胱結腸瘻の1例 (英文)	小田 芳経・ほか	55
異所性 (縦隔内) 腺腫による原発性副甲状腺 (上皮小体)		
機能亢進症の1例	伊藤 直人・ほか	59
腎血管筋脂肪腫の3例 一本邦194例の統計	高士 宗久・ほか	65
外傷を契機に発見された睾丸腫瘍の1例		
一巨大な後腹膜転移が先行した症例一	沖 守・ほか	77
尿路性器腫瘍に対する UFT の臨床成績	増田富士男・ほか	81
泌尿器科領域におけるセフメタゾールの有効性に関する臨床検討	三矢 英輔・ほか	87
男性不妊症患者に対する八味地黄丸の臨床効果について	三浦 一陽・ほか	97
複雑性尿路感染症に対する Dibekacin (DKB) の点滴静注の		
1日1回投与と1日2回分割投与との比較検討	岸 洋一・ほか	103
高齢者の慢性複雑性尿路感染症に対する		
Claforan® (CTX) の臨床効果	和志田裕人・ほか	121
泌尿器科手術における局所止血剤 Avitene の使用経験	久保 星一・ほか	131
神経因性膀胱に対するロパペロン錠 (KN-7) の効果に関する研究	遠藤 博志・ほか	135

Editor: Prof. Osamu YOSHIDA, M. D.

Department of Urology, Faculty of Medicine,

Kyoto University, Kyoto Japan 606

京都大学医学部泌尿器科学教室

## 購読要項 (1983年1月改訂)

1. 発行は毎月、年12回とし、年間購読者を会員とする。
2. 会員は年間予約購読料6,000円(送料とも)を前納する。払込みは振替に限る。口座番号 京都5-4772番 泌尿器科紀要編集部宛。
3. 入会は氏名、住所を記入のうえ編集部あて、はがきにて申し込めば所定の用紙を送付します。

## 投稿規定 (1983年8月改訂)

1. 投稿: 連名者を含めて会員に限る。
  2. 原稿: 泌尿器科学領域の全般にわたり、総説、原著、症例報告、そのほかで和文または英文とする。
    - (1) 普通論文の長さは、原則として、刷上り本文7頁(400字×28枚程度)図(Fig)10枚、表(Table)5枚までとする。
    - (2) 和文原稿はB5版400字詰原稿用紙横書き、楷書、当用漢字、現代かなづかい、平がなとし、清書する。文中欧語の固有名詞は大文字で、普通名詞は小文字で始め、タイプし、年号は西暦とする。
      - (i) 原稿の表紙に標題、著者名、所属機関名の順に和文、英文で併記する。下段に筆頭著者名(山田:または 山田・ほか:)と、2語(例:前立腺がん・PSAP)からなる running title および5語(英文)以内の key words を付す。
      - (ii) 英文抄録: ダブルスペースでタイプし、その和訳をつける。
      - (3) 英文原稿はダブルスペースでタイプし、原稿の表紙に標題、著者名、所属機関名、key words (和文に準ず)、running title (和文に準ず)の順にタイプし、別に標題、著者名、所属機関名、抄録の順に記した和文抄録を付す。
      - (4) 数字はすべて算用数字を使用し、単位 m, cm, mm, l, ml, kg, g, mg, μg, %, °C, pH などとする。
      - (5) 図、表、写真などはすべて別紙とし、写真はトリミングする。説明文は一括して記載し和文、英文を問わず Table 1., Fig. 2. などとする。英文が望ましい。原稿右欄外に挿入さるべき位置を明示する。とくに図・表は必ずタイプまたは楷書で清書し、誤りのないことを確認する。とくに、著者名、所属機関名、表紙のレイアウト、図・表の位置、参考文献の並び、表紙のデザイン、編集委員、石神 襄次、前川 正信、園田 孝夫、友吉 唯夫
  3. 掲載
    - (1) 論文の掲載は採用順とする。迅速掲載には迅速掲載料を要する。
    - (2) 紙代、印刷費および最初1頁の組版費は編集部で負担する。残額を実費負担とし、請求は論文掲載誌発行後におこなう。論文の長さが超過した場合、超過料を別途に申し受ける。
    - (3) 薬剤の効果、測定試薬の成績、治療機具の使用などにかんする研究論文については、掲載料を別途に申し受ける。
  4. 別刷
 

実費負担とし、著者校正時に部数を指定する。

宮崎 重 新谷 浩  
吉田 修(主幹)
- 者校正時、表中の数字の訂正をされないように願います。様式については本誌の図・表を参照する。
- (6) 引用文献は必要最小限にとどめ、引用箇所を本文中に入れる。その数は30までが望ましい。和文は楷書で、欧文はタイプする。  
(例: 山田<sup>1,2,7)</sup>, 田中ら<sup>1,3-10)</sup>によると)  
雑誌の場合—著者名(全員): 題名、雑誌名  
巻: 最初頁~最終頁、発行年  
単行本の場合—著者名(全員): 題名、書名、編集者名、版数、巻数、引用頁、発行所、出版地、発行年
- (7) 原稿を返却しないのでコピーを手元に残しオリジナルを書留で〒606 京都市左京区聖護院川原町54 京大病院泌尿器科紀要編集部宛送付する。
- (8) 校正は初校を著者による責任校正とし、再校以降は編集部がおこなう。著者複数の場合校正責任者を投稿時指定する。
- (9) 編集部は原稿の訂正、書き直しまたは返却を指定する権限を保持する。